



第29回研究大会 in 広島に参加して

社会的行動障害のある患者へのアプローチ ～在宅復帰を目指して～

平成29年2月10、11日の2日間にわたり広島国際会議場・広島文化交流会館の両会場で開催されました。私は、高次脳機能障害を持つ患者様へのチームアプローチについて発表させて頂きました。この障害を抱えて自宅退院するという事は、家族の方々に負担となる場合があります。その負担が少しでも軽減できるように、入院早期から家族との関係性の構築を行い、不安の解消や意向も確認し、本人・家族共に安心して自宅退院できるような退院支援に今後とも努めていきたいと思ひます。

看護師 佐藤 勝



ソフトビジョンを使用しての当院の取り組み

今回、研究大会では、今年度導入されたソフトビジョンの当院での取り組みについて発表させて頂きました。ソフトビジョンは座圧を視覚的・数値化することで、セラピストだけでなく、患者様にも分かりやすい機器であり、運動学習や褥瘡予防など幅広い分野でその有用性が示されています。全国的にはまだ導入されている施設は少なく、ソフトビジョンを使った効果の高いリハビリテーションの普及に役立てたのではないかと考えています。研究大会では、回復期病棟でのリハビリや生活を、各職種が独自の目線で捉えており、新しい視点での物事の捉え方や他職種の理解を深めることができました。今回の経験を当院で活かしていけるよう万里一空の境地を求めて、努力していきたいと思ひます。

理学療法士 岩瀬 諭

東三河地区における 脳卒中地域連携パスのアウトカム分析

地域の脳卒中患者様が急性期病院から回復期・在宅医療まで切れ目無い医療・介護サービスを受けることが出来る仕組みを構築できるよう、東三河地区の様々な医療機関／介護保険事業所等で構成される穂の国脳卒中医療連携研究会で検討を重ねてまいりました。この研究会では穂の国脳卒中地域連携パスを作成し、脳卒中医療の連携を強化するツールの一つとして2013年度より運用を開始しています。今回の研究大会では運用開始から3年分のアウトカム（成果）データを収集・分析し、そこから得られた知見について発表させて頂きました。これらの知見が東三河地域における脳卒中医療の質の向上に少しでも役立てばと考えております。

リハビリ室 室長 理学療法士 後藤 健一

新入職者紹介

去年の9月に入社しました。社会人1年目であり、まだまだ分からない所や迷惑をかけてしまうことが多々ありますが、どんなことでもがむしゃらにがんばりたいと思います。



介護職員
野口 和也

3年半他の病院に勤めていましたが、回復期の病院は初めてです。患者様が笑顔で退院される喜びを分かち合いたいと思います。先輩方の手本をみて日々学び、成長していきたいと思えます。よろしくお願い致します。



介護職員
福井 めぐみ

1月16日に成田記念病院から異動になりました。久しぶりの病棟活動に戸惑う事ばかりですが、1日でも早く慣れて他職種のスタッフに信頼されるように頑張りたいと思います。また、患者様に安心して服薬して頂けるように慎重に仕事したいと思えます。宜しくお願いいたします。



薬剤師
彦坂 美亜子

1月に入職したばかりで病院勤務が初めてという事もあり、慣れないことも多く皆様にご迷惑をおかけしています。スタッフの一員として責任を持ち、1日も早く仕事を覚えていけるよう努力していきます。宜しくお願いいたします。



事務員
小林 佳代

豆知識

こうすれば治るチョイ漏れ

何年前かに所ジョージと武田鉄矢が対談の番組で、トイレから出た時、ズボンの前が思わず濡れてしまい、手を洗った水をわざとパッパッと大事な部分にかけてオシッコとバレないようにしているといった話をしていました。中高年の男性の方で、トイレから出た時、同じように手を洗った時の水をわざと、大事な部分にかけている方は、みえませんか？

チョイ漏れは、排尿後尿滴下のことをいいます。排尿後にジワッと少量の尿が漏れてしまうのです。このチョイ漏れは50歳以上の3〜4割にあるとされています。漏れる量は1ccから5ccとわずかな量ですが、ズボンが濡れたり、あとで臭いが気になったりします。

男性の尿道は膀胱から出て前立腺部を通過して会陰部(肛門と陰囊の間)で少し太くなって前方へ90°曲がっています。この場所を尿道球部と言いますが、この部分に尿が貯まりやすいのです。排尿に勢いがあるうちは、尿がたまらずに全部出ますが、高齢になるにつれ尿の勢いが弱くなると、途中で尿が残ってしまいます。

第二成田記念病院
リハビリテーション科(泌尿器科専門医)
竹内 宣久

残った尿がチョロッと漏れるのがチョイ漏れの原因です。

このチョイ漏れにはとても有効な処置があります。排尿のあとで陰囊の裏側から尿道に沿って先端まで絞り出すようにして尿道をしごいて溜まっている尿を押し出すようにします。この尿道しごき法を行うと溜まっている場合には尿道口からピュッと尿が排出します。これだけで チョイ漏れはほとんど改善します。私も実際にこの方法を試してみましたが、とても有効だと思いました。心あたりのある方は是非試してみしょう。また、尿道しごき法を行ってもよくならないときは、前立腺肥大がすすんで残尿があることも考えられるので、早めに専門医を受診し原因を調べてもらいましょう。中高年でチョイ漏れのある方は是非一度試して、この悩みから解放されて下さい。わからないことがありましたら竹内まで気軽に声をかけて下さい。



❖ 院内・病棟レクリエーション 2月

今年も鬼がやってきた！！

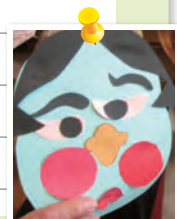
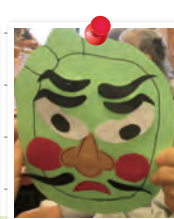
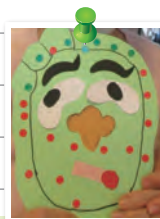
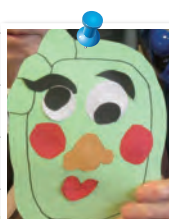
2月1日に節分行事を行いました。

『玉入れで鬼退治！！』鬼に扮した職員がカゴを背中に背負って、患者さんがカゴをめがけて投げます。カゴへの命中を狙うもよし、わざと外して鬼にあてるもよし。

「鬼は外！福は内！」の元気な掛け声に合わせ、玉を両手に抱え椅子から立ち上がって投げる勇敢な姿も見られました。

玉入れの後は、おかめひょっとこのお面作り、お茶会で“ホット一息”。

職員も一緒に楽しませて頂きました。



Let's リハビリ

リハビリテーション支援機器の紹介 ～IVES (アイビス) について～



弱い電気刺激が加わる

強い電気刺激が加わる

筋活動電位

電気刺激
筋活動電位

電気刺激
筋活動電位

IVES (アイビス) は「随意運動介助型電気刺激装置」で当院では2014年から導入しています。随意運動とは、自分の意志で筋肉を動かし運動を行う事です。つまりIVESは、動かそうとしている筋肉に対して電気刺激を行い、その筋肉を選択的に強化、訓練を行う事が出来るというものです。このような電気刺激は、失われた生体機能の再建を目的とする治療で機能的電気刺激 (FES) と言われています。

写真に示すように、手首を上へあげる筋肉を使うと2極 (黄色と赤) のパッドがその筋肉の活動電位を測定し、その活動電位に合わせた強さの電気刺激が手首

を上げる筋肉に入力され、その動きを増強する仕組みになっています。

当院では、主に脳卒中片麻痺の患者様に対してIVESを使用しています。写真では上肢 (手) へのアプローチですが、当院では下肢 (足) に対しても使用しています。

今回はIVESを紹介させて頂きました。このような新しいリハビリ支援機器と従来の運動療法を組み合わせることでより効果の高いリハビリテーションを目指していきたいと思っています。

管理栄養士から

2月に開催させていただいた患者家族学習会「食生活の見直し-健康寿命を延ばすために-」について振り返りたいと思います。

介護が必要になった原因は脳卒中、転倒・骨折、認知症、関節疾患などですが75歳以降では脳卒中などの疾病よりも低栄養による衰弱が原因で介護が必要になる方が増えています。

低栄養となり日々の活動に必要なたんぱく質やエネルギーが不足すると体力や筋力が低下し、疲れやすくなり、転んで骨折しやすくなったり、風邪を引きやすくなるといった悪循環を引き起こしていきます。

健康寿命を延ばすために毎日の食事を大切にして低栄養を予防しましょう。

【低栄養チェック】

- ☐ 食欲が低下し、食事の量が減ってきた
- ☐ あっさりした献立を好むようになった
- ☐ 体重が減ってきた
- ☐ 風邪を引きやすくなった
- ☐ 疲れやすくなった
- ☐ 足がむくみやすくなった

【食生活の見直し】

① 1日3食食べて栄養補給

1日の食事回数が1回では必要な栄養を摂りきることができません。1日2食以上は主食、主菜、副菜がそろったメニューにすると必要な栄養の補給につながります。

② 筋肉量を維持するためにたんぱく質を摂りましょう

たんぱく質を多く含む食品は肉・魚・卵・大豆・乳製品などです。普段のおかずにたんぱく源になる食品を1種類多く入れてみたり、小鉢をたんぱく質のものに変えるなどの工夫をするとよいです。

③ 「食欲がないな」という時には香辛料や酸味を利用し食欲増進をしましょう

④ 少食なら間食を利用

卵や牛乳を使ったおやつにするとエネルギーやたんぱく質の補給ができます。生活習慣が乱れるといけないので、やみくもに食べるのは控えて時間を決めて食べるのがおすすめです。季節の食材をおいしく食べてからだの巡りをよくし、体調を崩さないようにお過ごしください。

管理栄養士 都築 佳苗

編集後記



暖かな風が吹き、春の季節を感じる季節となってまいりました。しかし季節の変わり目は体調を崩されやすいかと思しますので、体調管理には気をつけていきたいですね。「リハ日和」の発行も4年目となりました。読みやすく親しみがあり、季刊誌係一同、今後もより充実した紙面づくりを心掛けていきたいと思っています。ご意見、ご感想等ありましたら、お気軽にスタッフへお声かけ下さい。

理学療法士 小椋 優

病院基本理念

「人としての尊厳」と「自分らしさ」を根源に、
住み慣れた土地での生き生きとした暮らしへの復帰を支援します。



社会医療法人 明陽会

第二成田記念病院

〒440-0855 豊橋市東小池町62-1 TEL. (0532) 51-5666
<http://www.meiyokai.or.jp/narita2/> FAX. (0532) 55-0660